

新製品情報

路面横断形状測定・解析・積算装置 レーザ・プロファイラ

LP-2000

Debut!



アスファルトで舗装された道路は、大型車や乗用車の往来が繰り返されるうちに重さで沈み込み、やがて「わだち掘れ」ができてしまうのは避けられません。特に近年の夏のような猛暑が続くとアスファルトが熱で変形してしまい、傷みも大きくなります。こうして傷んだ道路を補修する際には、事前に路面の横断形状(わだちの凸凹)を計測し、補修に必要なアスファルトなどのボリューム計算などを行うことが必要です。

東京計器がお届けする路面横断形状測定・解析・積算装置レーザ・プロファイラLP-2000は、路面横断形状測定と、ボリューム計算、工事計画、各種帳票、図面などを一元的に管理できる新商品です。

LP-2000は本体を歩道や道路際に設置してレーザー光を発射し、路面からの反射光を感知することで路面横断形状を計測するのが特長です。交通を妨げることが無いので渋滞発生の心配がありませんし、オペレータの安全確保にも効果的です。計測幅員は最大13mと従来機種の数倍以上に拡大し、1回の計測時間もわずか4秒とスピーディ。

計測したデータは従来機LP-200Aのソフト(LP横断解析ソフトVer.2)を使用して解析が可能で、CSV出力(ボリューム計算表)、CAD出力(DXF)にも対応しています。道路インフラの安全確保と舗装工事の合理化にレーザ・プロファイラLP-2000をぜひお役立てください。



設置・計測方法
道路際よりレーザー光をスキャンさせ、路面から跳ね返ってきた反射光を感知して横断路面形状を測定します。計測機は専用台車もしくは三脚を使って道路際に設置できるため、交通規制をかけずに計測が行えます。



車線連結
展開図上に車線をはめていくように連結して路面ファイルを作成します。(縦方向の連結にも対応)



計画画面
横断・縦断・展開の各ウィンドウを見ながら工事計画の作成が可能。瞬時にボリューム計算を行い、結果に応じて計画を変更することも簡単です。



地盤高の取り込み
任意の1点で地盤高入力すると他点の高さを自動計算します。



複数の計画線が描ける縦断図
横断図、展開図、縦断図の印刷が行えます。またボリューム計算表、計画厚一覧表の印刷も行えるほか、ボリューム計算表はCSV出力、図面はCAD出力(DXF)にも対応しています。

NETIS番号:KT-160041-A

お問い合わせ 通信制御システムカンパニー センサ機器部 TEL:03-3731-2631